

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

November 12, 2021

南ア、CPI・SARB ほかイベント多数

- ◆豪ドル、雇用情勢悪化で上値は限られるか
- ◆豪ドル、中国の貿易黒字拡大は支えに
- ◆ZAR、CPI・小売売上高・SARB・格付け発表などイベント多数で動きが出る可能性も

予想レンジ

豪ドル円 81.00-86.00 円

南ア・ランド円 7.10-7.70 円

11月15日週の展望

豪ドルの上値は限られるか。今週発表された10月の豪雇用統計は市場予想を下回る結果となった。失業率が4月以来となる5.2%（予想4.8%）まで上昇したほか、新規雇用者数も常勤雇用者が大幅に減少し、5万人増加予想が4.6万人の減少。労働参加率は64.5%から64.7%まで回復したとはいえ2カ月連続で64%台という低い水準だった。インフレ高進リスクはあるが、現状の雇用情勢では豪準備銀行（RBA）が利上げに踏み切るのは難しく、豪ドルの上値は限られそうだ。

来週、豪州から注目される経済指標は16日に発表される7-9月期賃金指数。10月のRBA議事要旨では「賃金の上昇ペースは緩やか」としたが、RBAの予想に反し賃金が増えれば、豪ドルの支えにはなりそうだ。また、RBAからは16日に議事要旨公表、15・18日にエリスRBA総裁補佐の講演が予定されている。18日にはRBAの決済担当責任者であるリチャーズ氏も講演を行う予定。

一方で、上値は限られるだろうが中国の貿易黒字が過去最高になり、輸入も大幅に伸びていることは豪ドルの支えとなりそうだ。豪中関係は改善されていないが、資源不足ということから中国による豪州からの輸入拡大が期待される。

南アフリカ・ランド（ZAR）は、来週はイベントが多数ありボラタイルな動きとなりそうだ。最大の注目は18日の南ア準備銀行（SARB）・金融政策委員会（MPC）だが、MPCを前に17日に10月消費者物価指数（CPI）と9月小売売上高が発表される。CPIはこの5カ月連続で、SARBの目標中心値（4.5%）を上回っている。10月も原油価格や南アのガソリン価格が高騰していることで、更なるCPI上昇の可能性もある。仮に大幅に上昇した場合は、高失業率の状況ではあるが、クガニャゴSARB総裁がインフレには利上げで対処することを言明していることから、市場の利上げ期待が高まるかもしれない。また、小売売上高は2カ月連続で前年比マイナスとなっている。前年が新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいたにもかかわらず、小売りが伸びていないことを考えると、インフレ下の景気後退でスタグフレーションに陥ることが現実味を帯びてくる。

なお、週末19日には格付け会社のムーディーズ社とスタンダード&プアーズ社が南ア債の格付けを発表する予定。通常発表時間が金曜NY引け頃になるため、市場が動意づくかは不透明。コモディティ価格が増え、税収が増えていることから、以前のような格下げ懸念は後退している。サプライズがない限り市場の反応は限られそうだ。

11月8日週の回顧

豪ドルは上値が重かった。米CPIが1990年11月以来となる強い結果となると、豪ドルは対ドル・対円ともに売られ、上値が重く推移した。10月の豪雇用統計が市場予想を下回ったことも、重しになった。ZARは軟調だった。週初は強含んで始まったランドだったが、プラチナ価格が下落すると一転弱含んだ。米CPIが強い結果となると、対ドルでランド売りが大きく進み、対円でも軟調な動きとなった。（了）